

調査結果の概要(本日のポイント)

アンケート調査の結果から、地域福祉の課題抽出のための検討材料を整理しました。「調査結果」はアンケートの回答結果を記述し、「考察」は課題抽出にあたって検討すべきと思われる事項を記述しました。

調査結果	考察
①居住年数(P.7)	
○ 居住年数は「30年以上」が40.6%で最も多く、次いで「10年以上20年未満」「20年以上30年未満」の合計が39.5%。(問6)	○ 本市は人口移動が安定している地域であることから、地縁組織が地域福祉推進の基盤となるのではないか。
②地域のつきあいの程度(P.8~9)	
○ 男女ともに「立ち話や情報の交換をする」「あいさつ程度」が多くなっている。(問8) ○ 年齢が上がるほど、つきあいの程度が高くなる傾向がある。(問8) ○ 近所づきあいをしない理由は、「仕事などで家をあけることが多く、知りあう機会がない」、「近所づきあいはわずらわしいので避けている」が多くなっている。(問8_1)	○ 若い時の「あいさつ程度」から、年齢を重ね「立ち話や情報の交換をする」ようになるといえるのではないか。 ○ 若い時は、近所とのつきあいの必要性やきっかけが少ない。若い時から、近所づきあいや地域に関心をもつ工夫が必要ではないか。 ○ 中高年についても、その世代にあった、その地域にあった「知り合う機会」をつくる必要があるのではないか。 ○ 近所づきあいをわずらわしく感じている人が一定数(23.3%)いることを踏まえ、「近所づきあい」のきっかけづくりの工夫が必要ではないか。
③地域での人とのつきあいや関わりの必要性(P.9~10)	
○ 「まあまあ必要だと思う」、「必要だと思う」が合計87.5%。(問9) ○ どのようなときに必要性を感じるかという問いでは、「被災地での地域における助けあいや支えあいの話題を聞いたとき」が76.4%で最も多い。(問9_1)	○ ほとんどの人が、意識においては人とのつきあいが必要と考えていて、そういう人が行動に移すためのきっかけづくりや、つきあいや関わりが継続する工夫する必要があるのではないか。
④「地域づくり」についての考え(P.11)	
○ 地域づくりについて、「たまたま、ここに住んでいるだけで特に関心や愛着はない」が64.0%で最も多い。(問9_2)	○ 問9の結果とあわせ考えると、“地域”とは異なる視点やアイデアで、地域での人とのつきあいや地域づくりを検討する必要があるのではないか。
⑤地域の行事や参加状況(P.11~15)	
○ 「進んで参加している」「機会があれば、参加している」が合計37.1%、一方「あまり参加していない」「関心はあるが、参加していない」が合計45.1%。(問10) ○ 年齢が高くなるほど、「機会があれば、参加して	○ 地域活動について、より積極的である人はより消極的である人を下回っている。消極的な人を積極的に参加していく工夫が必要ではないか。 ○ 年齢別にみると、年齢が上がると、より積極的に参加しているため、世代にあった、参加するき

<p>いる」の回答割合が高くなる。一方、「あまり参加していない」では年齢が低くなるほど、回答割合が高くなっている。(問10)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 活動の内容は、「町会・自治会活動」(70.0%)、「だんじり祭り」(37.8%)。(問10_1) ○ 「関心はあるが、参加していない」理由では、「仕事を持っているので時間がない」(43.0%)が最も多く、前回調査(27.7%)から増加しています。(問10_2) 	<p>かけや行事の内容を検討する必要ではないか。</p>
<p>⑥生活上の悩みや不安(P.22)</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 悩みや不安の内容は、健康、老後、介護、収入、災害に関することが多くなっている。(問19) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 健康、老後、介護、収入、災害など、悩みや不安の内容について、柱となるテーマを設定して地域づくりを検討することが必要ではないか。
<p>⑦地域の福祉課題への関心(P.24～25)</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ある程度関心がある」が61.7%で最も多い。(問22) ○ 男女別では、女性の方が関心が高い。(問22) ○ 年齢別では、年齢が上がるほど関心が高い。(問22) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 性別、世代にあった福祉課題のテーマ、情報発信の方法など検討する必要ではないか。
<p>⑧福祉課題に対して、助け合いの必要性(P.29)</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「とても必要だと思う」「ある程度必要だと思う」が合計85.8%で最も多い。(問24) ○ 年齢別において、どの年齢層も必要性を感じる人が多い。(問24) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ほとんどの人が、意識においては「福祉課題に対して、助け合いの必要性」と考えていて、そういう人が行動に移すためのきっかけや、その受け皿が必要ではないか。
<p>⑨地域で安心して暮らせるためにあなたができること(P.30)</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「安否確認の見守り、声かけ」が53.9%で最も多く、次いで「災害時の手助け」が45.3%、「話し相手」が27.5%。(問25) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 住民主体の地域福祉を推進するため、住民が「できること」と意識していることから始めることのできる参加の仕組みをつくる必要があるのではないか。
<p>⑩再犯防止の取り組み(P.35、P.37)</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 取り組みの認知度では、「聞いたことはあるが内容は知らなかった」「初めて聞いた」の合計が82.7%。(問30) ○ 取り組みについては、「自分がやることは難しいが、取り組みは必要だと思う」が59.3%で最も多く、次いで「協力することは難しいが、取り組んでいる人(保護司)や団体は応援したい」が20.3%。(問31) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 8割超の人が聞いたことがなかったり、内容を知らなかったり、あまり認知されていない状況であるため、認知度を上げるとともに再犯防止の理解促進の効果的な方法を考える必要があるのではないか。